

## 多難な中 希望の船出

### 新年度クラブ総会開く

#### 医学芸会総会への対応も協議

新生医家芸術クラブへ脱皮なるか……  
ご支援&ご協力を今後も宜しくお願い致します！

さる七月五日、日本医家芸術クラブの総会が東京銀座の「高松」で開かれました。太田怜委員長のご挨拶、全員の簡単な自己紹介のあと、今後のクラブの運営について、活発な議論がなされました。

一昨年の総会にて会の存続と発展に向けて新たに設置された再生委員会の努力の甲斐あって、予算上も運営上も前途多難の様相は変わらないものの、ようやくトンネルの出口が見えてきた状態で、新生医家芸術クラブも、どこかの自動車メーカーのようにスリム化し、小規模ながら運営の目鼻がつきつつあります。

最初に、安井再生委員から機関紙『医

家芸術』の出版について、現状の予算内で、カラーページを入れ、会員ページ負担金を半額くらいにおさえても、年4回の季刊誌と文芸特集号発行が充分可能であり、今後も皆さんにご迷惑をかける事はないとの心強いお話がありました。

次に西田事務局長代理から現状の会計報告がありました。再生委員会の発案で今年度より会費納入体勢も変更したことが功を奏し、財務状況は漸く息を吹き返しました。もちろん過渡期に起こりがちな多少の混乱はありましたが、これも多くの会員の温かいご援助により收拾され無事に新年度がスタート、今後はスムーズに行くことと思われれます。

予算は、これまでの一千数百万円規模から、数百万円規模になりました。しかし、むしろ少数精鋭、ここから、皆さんの更なるご協力により、新時代のクラブを再生してゆけるものと確信しています。一方、各部財務報告では全ての部が健全な運営状況であり、それぞれの部の部長

はじめ幹部の皆さまのご苦労が実を結んでいると感じられました。

食事の合間を縫って、各部では活発に今後の活動についての協議がなされました。また、再来年（2011年4月）に開かれる「第28回日本医学芸会総会」からの参加呼びかけに対しての対応も協議されました。前回の医学芸会総会の時には「俳句」で参加した事を記憶しておられる先生も多く、今後、総会事務局の提示をふまえて対応していく事になりました。現在エントリーの可能性のある部は、俳句、美術、写真、洋楽です。そこでは、津谷再生委員の「帝国ホテルで医家芸術クラブ主催の大ダンスパーティーを開いてはどうか」というご提案も紹介されました。各会員からの積極的なご提案をお待ちしております。

ところで、流石奇術部、安彦先生が思ってもよらぬ奇術のパフォーマンスを披露して下さいました。先生は、美術部のご所属ですが、かつて当クラブで盛んだっ

た奇術部にも所属しておられ、過去にも総会等で何百回も奇術をご披露されたそうです。ご持参のBGMに乗った鮮やかな手捌きは、本当に素晴らしくに列席者から大きな拍手が湧き起りました。

最後に、白矢再生委員長が、3人の再生委員からのメッセージ「長寿万歳！でも……」を紹介しました。会員が高齢化する中、更なる工夫をこらし、各部の活動をいっそう活発に行えるように、新しいメンバーの入会を呼びかけ、伝統あるクラブの継続・発展を期待する旨の内容で、この機関誌『医家芸術』の62～63ページに掲載されておりますので、ご一読下さい。

予定時間はあつという間に過ぎ、和気藹々とした中にも、今後の厳しい現状を見据えつつ、なおクラブを発展させていこうという熱意のあふれた充実した総会でありました。

総会出席者（所属各部も付加）は  
以下の通り。



委員長太田 恰（前列中央）邦楽

副委員長初芝澄雄（その④）俳句・短歌

〈前列左から〉

再生委員会 白矢勝一

秋葉則子（邦楽・美術）

佐久間文子（写真） 二人おいて

川口敷子（邦楽） 松木耀子（洋楽）

高橋妙子（邦楽・洋楽）

小川昭子（洋楽） 西田明子（事務局）

〈後列左から〉

新村富士夫（文芸） 雨宮 昭（写真）

山田新太郎（監事・文芸）

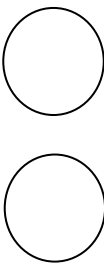
江川政昭（美術） 林 宏匡（短歌）

秋葉琢磨（俳句・書道・美術）

安彦洋一郎（美術） 小川再治（文芸）

小口英世（書道） 飯塚崇志（洋楽）

本田英輔（書道・写真）



（円内は①安井廣迪 再生委員・文芸、

②吉元昭治 文芸の両氏は途中退席）